

め予備費の支出を求める提案があり、承認された。

(2) 国際交流事業について

62年度国際交流事業の追加として、インドで開催される「熱帯微気象と大気汚染」の国際学会へ、論文発表者1名を派遣し、補助金を支出することが担当理事から提案され、承認された。

(3) 昭和64年度秋季大会を「沖縄」で開催することについて

とについて

石島理事から、沖縄支部長と下相談程度にしか詰めてないが、未経験ではあるが、了承が得られれば輪番ということではなく、福岡の肩代りということで、開催に向って取り組んでいく旨の説明があり、沖縄支部から実行計画・予算(案)を提出願うこととされ、これにより常任理事会で前向きに検討することとされた。

昭和62年度日本気象学会臨時総会議事録

日時 昭和62年10月15日(木) 16:00~17:00

場所 札幌市北区北8条西5丁目
北海道大学学術交流会館

臨時総会次第

1. 開会の辞
2. 議長選出
3. 理事長挨拶
4. 山本賞授与
5. 日本気象学会奨励金贈呈
6. 「堀内基金奨励賞」の設立について
7. 閉会の辞

出席者数

出席者	155名
委任状	829名
計	984名

1. 開会

中村理事から定款第38条による総会成立に必要な出席者数728名(通常会員現在数3,638名の5分の1)、うち委任状によらない出席者146名(通常会員の25分の1)が満たされているので総会は成立するとして、開会が告げられた。

2. 議長選出

中村理事が議長選出は出席会員の互選によるが、慣例にしたがい大会委員長の秋山 勉会員を推薦したいと語ったところ、満場一致で承認され、同会員が議長に選出された。

3. 議長挨拶

秋山議長から、ご指名により議長をつとめさせていただくので、ご協力をお願いする旨の挨拶があった。

4. 理事長挨拶

山元理事長から概要次のような挨拶があった。

- (1) 本大会の開催に当っては秋山大会委員長(北海道支部長)をはじめとする支部関係の会員の皆様方の並々なぬ努力に対し感謝するとともに、北海道支部創立30周年記念行事を催すなど支部活動に尽力されていることに対し敬意を表する。
- (2) 本学会の活動について、2、3の問題を申し述べるが、学会の会務は、各理事、各会員の学会への尽力、協力により順調に発展しており、会計も会費その他の収入が順調であり、賛助会員を含め4,200名近い会員数となっており、会員の協力によるものと感謝する。
- (3) 機関誌の「天気」は増ページを図りながら新しい内容を盛り込むよう努めている。

「気象集誌」については、このたびNWPシンポジウムの特別号を気象庁の協力を得て発刊した。外国人による英文校正を試行したが結果が良いので来年の1号から取り入れることとし、ページチャージの値上げでまかなうよう計画している。さらに、従来の活版印刷方式を変更し、コンピュータ/レーザープリンターによって版下作成、印刷するという新しい方式を検討中で、なんらかの方針が決まれば会員

に知らせる。

- (4) 事務局体制の強化については、目下パソコンへの入力を行っており、プライバシーの保護を図りながら会員データベースの作成に心掛けている。
- (5) 国際学術交流基金も10月14日現在133名の会員からのご寄付をいただき540万円位に達した。この利息で今年度海外派遣の補助を行っている。基金も5百数十万円では十分な活動がむずかしいので、一層の充実を図るため諸団体、賛助会員を中心に寄付をお願いするよう案を固めている。
- (6) 大会の開催地についてであるが、春季大会は東京、秋季大会は地方持ち回りということになっている。昨日の理事会で、64年の秋の九州支部の順番のときに、沖縄で開催することが了承され、沖縄支部関係者によって具体的な計画が作成されるので、固まり次第アナウンスする。
- (7) 国際気象学・大気物理学協会 (IAMAP) 第6回総会 (1993年8月) の日本への招致については、総会の決定となる2年前のレディングでの会議に向けて根回しを行っている。
- (8) 1988年2月インドで開かれる「熱帯微気象と大気汚染」の国際シンポジウムを後援し、スピーカーを推薦する。
- (9) 「堀内基金奨励賞」の設立について、堀内剛二会員からご寄付があり、この賞の設定には総会の承認が必要で、本日臨時に総会を開いた。主旨説明があとであるが審議のうえご承認を得たい。

5. 各賞受賞者選定経過報告

- (1) 山本賞の受賞者選定の経過及びその理由について松野担当理事から報告があった。
- (2) 奨励金の受領者選定の経過及びその理由について関口担当理事から報告があった。

6. 山本賞の授与

山本理事長から次の会員に賞状、賞牌、賞金が授与された。

- 林 祥介会員 (東京大学理学部)
 「水惑星」モデルでシミュレートされた30~40日周期振動の研究」

7. 日本気象学会奨励金の贈呈

山本理事長から次の会員に賞状、賞金が贈呈された。

- 入田 央会員 (岐阜地方気象台)
 「メソスケールのレーダー・エコー解析及び雷雲の発達と移動機構についての研究」
- 三品 博会員 (釧路地方気象台)
 「釧路地方気象台管内における最低気温分布の地域特性の研究」
- 榎原保志会員 (東京都目黒区立第2中学校)
 「気象観測に基づく教材システムの研究」

8. 「堀内基金奨励賞」の設立についての審議

中村庶務担当理事から資料にもとづき、提案理由及び堀内基金奨励賞受賞者選定規定 (案) の説明があった。議長からこれについて質問、意見等の発言を求めた。意見：各賞として賞が多すぎるので、新しい賞を設けることに反対する。直接に大気科学者に贈ることなく、学会活動にたずさわるボランティアを募集し、そのボランティアの活動のための資金に活用されることを提案する。

理事会で案を作りなおすことを求める。

意見：賞が多すぎることはない。アメリカの気象学会には多くの賞が設けられている。堀内会員の寄付者の趣旨にそうことが大切である。

意見：気象学の境界・周辺領域の定着があいまいで問題がある。受賞者を絞りがきれるのか疑問である。

意見：選考対象者は気象学会員以外の人で、他分野の研究で気象学に貢献した人も含めている。

議長から「堀内基金奨励賞」の設立及び堀内基金奨励賞受賞者選定規定 (案) につき、賛成を求めたところ、多数の賛成があった。

また、反対の方の挙手を求めたところ、3名の挙手があった。

議長から本2件につき承認されたことが告げられた。

9. 議長解任

議長より会員の協力により、議長の務めを果すことができたことに謝意を表すとの議長解任の挨拶があった。

10. 閉会

以上をもって昭和62年度社団法人日本気象学会臨時総会が終了した。